

第80回愛知県高等学校総合体育大会 バドミントン競技 県大会 大会要項

- 1 主催 愛知県高等学校体育連盟
- 2 主管 愛知県高等学校体育連盟 バドミントン専門部
- 3 共催 愛知県 愛知県教育委員会
- 4 後援 中日新聞社 愛知県スポーツ協会 愛知県バドミントン協会
- 5 大会役員
大会委員長 岩口 敏也 (愛知県立蒲郡東高等学校)
レフェリー 稲垣 翔悟
総務部長 上出 美佳
デピュティーレフェリー 佐藤 雅史
競技審判副部長 荻野 佳宏
医療役員 山田 悠里子
競技役員 川端 一基 安藤 友一 渡邊 武志 青木 光司 三浦 時央
野瀬 泰弘 立松 彰吾 大村 悠介 桐林 健太 森田 麻里名
天野 英也 石川 大樹 中村 克己 柳 健太郎 加古 伸吾
千賀 裕斗 丹羽 雄飛 立木 裕太 吉田 光希 安藤 智淳
中野 馨資 深津 英晃 濱中 健斗 加藤 禎三 児玉 康宏
丸山 貴光 坂田 耕藏
- 6 開催日時・開場時刻・会場・種目

2026年	5月16日(土)	9:00開場	パロマ瑞穂アリーナ	男女学校対抗
	5月17日(日)	9:00開場	名古屋市守山スポーツセンター	男子複
		9:00開場	パロマ瑞穂アリーナ	女子複
	5月24日(日)	9:00開場	名古屋市北スポーツセンター	男子単
		9:00開場	パロマ瑞穂アリーナ	女子単

7 会場住所	パロマ瑞穂アリーナ	名古屋市瑞穂区田辺通3丁目4
	名古屋市守山スポーツセンター	名古屋市守山区竜泉寺2丁目112番地
	名古屋市北スポーツセンター	名古屋市北区成願寺1丁目6番地12

- 8 参加資格
- (1) 愛知県高等学校体育連盟加盟校の生徒であること。
 - (2) 出場する選手はあらかじめ健康診断を受け、在学する学校長の承認を得た者。
 - (3) 全日制課程と定時制課程及び通信制課程の混合チームは出場できない。
 - (4) 統廃合対象となる学校による、合同チーム（統廃合完了前の2年間に限る。）の大会参加を認める。細則については別途定める。
 - (5) 全国高等学校総合体育大会および東海高等学校総合体育大会の県予選会を兼ねるため、下記の参加資格を有すること。
 - ア. 年齢は2007年4月2日以降に生まれた者とする。ただし同一学年での出場は1回限りとする。
 - イ. 転校後6か月未満のものは出場できない。（ただし、やむを得ない場合は、県高体連会長が認めたときはこの限りではない）
 - ウ. 2026年度公益財団法人日本バドミントン協会の会員登録者であること。
 - エ. その他全国高等学校総合体育大会競技別要項の参加資格に準ずる。
- (6) 参加資格の特例
- 上記(1)に定める生徒以外で(2)～(5)の大会参加資格を満たした生徒を、県高体連が別に定める内規に従い、大会参加を認める。
- 9 競技方法
- (1) 競技は2026年度公益財団法人日本バドミントン協会競技規則、同大会運営規程及び同公認審判員規程に則り行う。
 - (2) 各種目ともトーナメント方式とする。
 - (3) すべて正規ポイント（21P×2G先取，MAX30P）で行う。

- (4) プレーヤーはマッチに出場する際、ラケット、タオル、飲み物等をバッグに入れてコートに集合すること。(コートに共用のかごやトレーは設置しない。)
- (5) 審判は原則として初回戦を除き、敗者審判とする。なお、個人戦において、プレーヤーは線審(兼モップ係)1名を連れてマッチに臨む。敗者は出場試合の審判用紙を本部へ持っていき、審判を行う試合の審判用紙を受け取る。準決勝以降は、愛知県バドミントン協会の派遣審判員とする。
- (6) シャトルコックは各校持ち寄りとし、公益財団法人日本バドミントン協会の第1種検定合格球に限る。温度別適正分類表示番号③とする。
- (7) プレーヤーは、相手または観客に不快な感じを与えないように、競技中、運動用ウェア、シューズを着用し、競技の品位を保つために、公益財団法人日本バドミントン協会の審査合格品とする。
- (8) 上衣の背面中央には、高等学校名を日本語で明記し、県名は、高等学校名の下に愛知と明記すること。背面の文字は単一色で、文字列各行の大きさは、それぞれ高さ6cm~10cm、横30cm以内とし、視認性の高い文字(楷書体・明朝体またはゴシック体のような文字)を使用し、文字の色は上位背面の文字列表示部分の色と明確に区別できる色とする。
- *ゼッケンを使用する場合は、白の布地で縦15cm、横30cmの大きさを基準とし、4隅を留めること。(ゼッケンの場合の文字は、黒色又は濃紺色とする。)

10 備考

- (1) 組合せは、「愛知県高等学校体育連盟」の公式Webサイトにアップロードする。
- (2) 競技中にプレーヤー及び補助員が負傷した場合、主催者が応急の処置はするが、その後の責任は負わない。
- (3) 学校対抗においては、学校対抗メンバー表を学校対抗当日、大会本部に提出すること。
- (4) 開場は上記のとおりである。到着が早すぎないように注意すること。
- (5) 開会式を行う。

- (6) 貸切バス等を利用する場合は、総務へ連絡し、可否を確認すること。
- (7) 各校は、必要人数の線審の帯同をすること。
- (8) 観客席の座席は指定しないが、十分な間隔をあけて着席すること。
- (9) 本大会男女シングルスでベスト8に進出したプレーヤーは、2026年6月7日(日)に開催される「第80回 国民スポーツ大会バドミントン競技〔少年男子、少女女子〕愛知県予選会」の出場権利を与える。

1.1 感染症対策について

- (1) マスクの着用については、個人の判断に任せるものとする。
- (2) 飲み物や着替え等を入れるかごを各コートに設置しない。タオルやラケット、飲み物等はすべて各自が持参したバッグ内に入れる。保冷バッグの利用は可とするが、クーラーボックスの使用は認めない。
- (3) 換気に関わる体育館の出入口の開閉に関しては、各会場の体育館の指示に従う。

1.2 連絡先 愛知県立豊明高等学校 上出 美佳 Tel 0562-93-1166 Fax 0562-93-1542

競技上の注意

競技審判上の注意

[全般的事項]

- この大会は、愛知県高等学校体育連盟が定めた大会実施要項及び公益財団法人日本バドミントン協会競技規則、大会運営規程並びに公認審判員規程により行う。
- 審判は原則としてすべて敗者審判で行う。
- プレーヤーは開会式・開始式に間に合うように会場に到着すること。
- 競技の進行を円滑に進めるために、コールされたら速やかに「集合」すること。
- マッチの進行状況に応じて、予定されたマッチの開始時刻やコートを変更することがある。放送には十分注意をすること。
- マッチ**を連続して行う場合のインターバルは次の通りである。
〈学校対抗〉○学校対抗が連続する場合は20分とする。ただし、愛知県大会の決勝・3位決定戦は30分とする。
○2コート以上並行してマッチを行い、同一プレーヤーが連続してマッチをする場合は10分とする。
〈個人対抗〉○準決勝からは15分、その他はすべて10分とする。
- 各マッチのインターバルは次の通りである。
○すべてのゲーム中に、一方のサイドのスコアが最初に11点になったとき、60秒を超えないインターバルを認める。
(プレーヤーは20秒前にはコートに入ること)
○第1ゲームと第2ゲームの間、第2ゲームと第3ゲームの間に120秒を超えないインターバルを認める。
(プレーヤーは20秒前にはコートに入ること)
- インターバル中のアドバイスは、監督・コーチなど**各サイド**同時に2人までである。
主審の「(コート番号) 20秒」で、コートから離れるものとする。
なお、コーチングシートを設ける。
- 個人対抗単において、マッチ開始前のウォームアップ(3分間)をする相手は対戦相手とする。
- マッチ中のプレーヤーの**クイックタオル**、**汗ふき**・**給水**などは必ず主審の許可を得ること。
なお、氷嚢の使用は、インターバル中のみとする。
○容器は倒れてもこぼれないフタ付ボトルを使用し、主審横のショートサービスライン付近でバッグに入れ、保管すること。
○氷嚢は、ベンチ、コーチングシートで保冷バッグなどに入れ、保管すること。
- サービスの遅延行為についての判定は主審が行う。
*サブやレシーブの位置についたら、プレーヤーが、準備できていないことを示すために手を挙げている場合でも、サーバーが立って何もしない場合やラケットを左右に動かしている場合でも過度の遅延は不当な行為になり、主審の判断でサーバーまたはレシーバーに遅延行為として「フォルト」にする場合がある。
- 主審及び大会本部が必要と認めた以外のプレーの中断は、一切認められない。
- 次のような違反行為に対しては厳正に対処する。(競技規則第16条)
○息切れなど体力回復等の遅延に関わる行為、または、アドバイスを受けるためにプレーを遅らせる行為。
○主審の許可なしにコートを離れること。
○故意にシャトルに手を加えたり破損したりする行為。
○審判員や観客に対して横柄な振舞い、相手に対して下品で無礼あるいは不適切な態度、言動。
○見苦しい着衣でプレーをする。
○ラケットや身体でネットなどのコート施設を叩いたり、耳障りなかけ声や奇声を発するなどの不品行な振舞い。
- 競技中は、必ず高等学校名・**県名**の入ったシャツを着用するか、ゼッケンをつけること。**県名は、高等学校名の下に愛知と明記すること**。背面の文字は単一色で、文字列各行の大きさは、それぞれ高さ6cm~10cm、横30cm以内とし、視認性の高い文字(楷書体・明朝体またはゴシック体のような文字)を使用し、文字の色は上位背面の文字列表示部分の色と明確に区別できる色とする。
- 競技中の怪我や病気については**レフェリー**が判断する。
- 審判員の判定に対して疑問のある場合は当該プレーヤーが、学校対抗の場合は当該プレーヤーと監督に限り質問することが認められる。ただし、抗議あるいは異議であってはならない。
- 競技場内では、プレーヤーは電子通信機器(携帯電話、スマートフォン、タブレット端末等)の電源を切るかまたはマナーモードにすること。
- コートサイドで、**監督**・**コーチ**はマッチ中、電子通信機器(携帯電話、スマートフォン、タブレット端末等)を使用してはならない。

【学校対抗に関する事項】

1. 学校対抗（団体戦）はダブルス2組・シングルス3名で行い、マッチ順序はダブルス1・ダブルス2・シングルス1・シングルス2・シングルス3で実施する。なお、シングルス1出場者以外は、ダブルスとシングルスを兼ねて出場することができる。
2. 監督、コーチ、マネージャー、プレーヤーの変更は開会式前をもって最終のものとし、以後の変更は一切認めない。ただし、追加は認めない。なお、その際の変更は、公益財団法人日本バドミントン協会の会員登録を終えている者とする。
3. 初回戦のオーダー用紙は、開会式前に大会本部へ提出すること。次回戦以降は大会本部で手渡すものとする。対戦相手がわかり次第、速やかに提出すること。
4. オーダー用紙は、3枚複写で記入し、(A) (B)を提出し、(C)を自校で保存すること。
5. 指示のあった時刻までにオーダー用紙の提出がない時には「棄権」とする。
6. プレーヤー集合所は設けない。エントリーをしている者（監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、プレーヤー5名以上7名以内とし、マネージャーはプレーヤーを兼ねることができる。また、5名を欠いた場合はチームとして認めない。）は、プレーヤー集合の放送の指示によりコートに集合すること。
7. ベンチに入ることができるのは、当該マッチにエントリーされた者のみとする。
8. マッチ開始前のウォームアップは、初回戦に限り、対戦チームと挨拶の後、主審の指示で各校5分間行うものとする。順番は組合せ番号の先番チームからとする。なお、当初から2コート以上を用いてマッチをする場合は、両チーム同時に5分間とする。ただし、決勝・3位決定戦については各マッチ前に3分ずつウォームアップ時間を与える。（* 開会式前のウォームアップはない。）
9. 団体戦開始時（挨拶時）には必ず監督も整列をすること。監督不在の場合、原則としてそのマッチはすべて没収となり、オープン形式での参加となる。
10. マッチは、1回戦より2～3コート並行して行うことがある。その際、同一プレーヤーが連続してマッチをする場合のインターバルは10分とする。
11. マッチは、勝敗決定（3マッチ先取）後、打ち切りとする。（進行上マッチを並べて行った場合、オーダーの順番に関わりなく、マッチの終了順で団体戦の勝敗を決定する。）
12. 勝敗が決定したら対戦チームとあいさつをし、勝利チームは退場し、敗者チームは審判用紙を本部席へ持っていくこと。

【個人対抗に関する事項】

1. プレーヤーの変更は、いかなる場合でも認められない。
2. プレーヤーはマッチが近づいたら、開会式・開始式で指示があった場所に待機すること。
3. コーチングシートに入ることができるのは、次の①②を満たしている者とする。
 - ① 公益財団法人日本バドミントン協会の会員登録を終えている者。
 - ② 引率教員または学校長が認めた指導者。
4. マッチのコールがされたら、速やかにコートに集合すること。
5. マッチ前のウォームアップは認めない。ただし、決勝・3位決定戦・2位決定戦については主審の指示に従い、同時に3分間とする。（単の場合、対戦者同士で行うこと）（* 開会式・開始式前のウォームアップを設ける。）
6. 勝敗決定後は、対戦相手とあいさつをし、勝者は退場し、敗者は審判用紙を本部席へ持っていくこと。

【一般上の注意】

1. 各競技会場の開場時間を確認して、あまり早い時間に行かないこと。
2. 愛知県大会においては、監督・コーチ・マネージャーは会場到着後、大会本部で受付を済ませ、IDカードを着用すること。
3. 競技者は会場に到着したら、学校対抗に出場するチームの代表者はオーダー用紙を本部席に取りに行くこと。また、個人戦で「棄権」がわかっているところは本部に報告すること。
4. 各競技場では、係員の指示や会場の表示に従って、下履きと上履きの区別をつけること。
5. 競技フロア内での飲食やクーラーボックスの持ち込みを禁止する。ただし、学校対抗の際、ベンチでの水分補給を認める。濡れた場合は、各校の責任できれいにすること。
6. 部旗・応援旗を使用する際には、競技に支障がないような配慮をすること。なお、競技や大会の運営に支障が生じると大会本部が判断したときには、取り外すこと。
7. 応援の際、競技に支障がないように配慮をすること。太鼓やラッパなどの鳴り物、うちわメガホンなどを使用した応援は禁止する。競技に支障があるとレフェリーが判断した場合は、競技規則に基づき厳正に対処する。
8. フラッシュを用いての写真撮影は禁止する。また、会場施設内の電源（コンセント）の使用は禁止とする。
9. ゴミは各自で責任を持って持ち帰ること。「来たときよりも美しく」の気持ちを心掛けること。
10. 競技中の疾病、傷害については応急処置のみ主催者で行うが、その後は各自で処置をすること。
11. 防犯上、貴重品はじめ私物の管理は、各自（各チーム）で責任を持って行うこと。
12. 各会場との最前列は、一般および対戦校応援席とするので、荷物等は置かないこと。なお、観覧席では立っての応援は禁止する。また、事故防止のため最前列の手すりにはもたれないようにすること。

2026年5月8日(金)

愛知県高等学校体育連盟 バドミントン専門部の先生

愛知県高等学校体育連盟 バドミントン専門部
審判委員会 佐藤雅史

愛知県高等学校体育連盟 バドミントン専門部 競技規則等に関する注意

1. 3ゲーム×15点制 , Time Clock について

2026年4月25日(土)のBWF(世界バドミントン連盟)総会にて、3ゲーム×15点制のスコアリングシステムが承認され、2027年1月4日より導入される。全日本総合、全日本社会人、全日本シニア、全日本ジュニア、国民スポーツ、マスターズ、S/JリーグI・II・IIIの各大会は3ゲーム×15点制で実施。全日本総合への出場権が獲得できる全日本学生、全日本教職員、インターハイ、全中、各地区予選会)の該当種目は3ゲーム×15点制で実施します。

BAJ(公益財団法人日本バドミントン協会)から、各加盟団体での導入時期を検討するように指示。

第80回愛知県高等学校総合体育大会県大会まで3ゲーム×21点、東海高等学校総合体育大会から3ゲーム×15点で実施。

2027年1月3日までは、3ゲーム×15点制で実施する場合、
競技規則 付録3 代替スコアリングシステムの2. 「1ゲーム15点で2ゲーム先取の3ゲームマッチ」を適用。

第7条 スコアリングシステム

第1項 マッチは、2ゲーム先取の3ゲームで行う。

第2項 ゲームで15点を先取したサイドがそのゲームの勝者となる。

ただし、競技規則第7条第4項、第5項を除く。

第4項 スコアが14点オールになった場合には、その後最初に2点リードしたサイドがそのゲームでの勝者となる。

第5項 スコアが20点オールになった場合には、21点目と得点したサイドがそのゲームでの勝者となる。

第8条 エンドの交替

第1項 プレーヤーは、次の場合にエンドを変える。

〔3〕第3ゲームで、どちらかのサイドが最初に8点に達したとき

第16条 プレーの継続、不品行な振舞い、罰則

第2項 インターバル

〔1〕すべてのゲーム中に、一方のサイドのスコアが8点になったとき、60秒を超えないインターバルを認める。

「タイムクロック(25秒)」:2026年度の導入は見送り。BWFで検証中。決定後、特定の大会での導入検討。

2. 競技規則, 公認審判員規程, 大会運営規程の改正について

(1) 競技規則

第9条 第1項

[1] サーバーとレシーバーがそれぞれの態勢を整えた後は、両サイドともサービスを不当に遅らせてはならない。

*サーバーやレシーブ位置に着いたら、サーバーが、立って何もしない、もしくはラケットを左右に何度も動かしている場合は、主審は過度の遅延と判断し、不当な行為としてフォルトをコールすることができる。（「フォルトサーバーアンデューディレイ」）

またレシーバーが、準備できていないことを示すために手を挙げている場合も同様に、遅延行為とみなし、主審はフォルトをコールすることができる。（「フォルトレシーバーアンデューディレイ」）

オブストラクション 第13条第4項 [4]

第13条 フォルト

第4項 インプレーで、プレーヤーが

[4] 相手を妨害したとき、すなわち、ネットを越えたシャトルを追う相手の正当なストロークを妨げたとき

*相手の正当なストロークを妨げるとは、互いにネットに近いところで相手がバレーのブロックのようにラケットを差し出して打者を妨害する状態を指す。

(2) 公認審判員規程

第3条 第5項 プレーヤーとコーチの管理

[16] マッチ中にプレーヤーへ渡す必要がある物（ラケット、飲み物等）がある場合、監督、コーチは、（競技規則第16.2条に規定されたインターバルを除き）プレーヤーにそれらの物を直接渡してはならない。必ずレフェリーを通してプレーヤーに届けなければならない。

[17] コートに入ることができる監督・コーチなどのチーム関係者の最大人数は、各サイドにつき2名までとする。インターバル中に、新たなチーム関係者がコートに入ろうとする場合、すでにチーム関係者がいるときは、各サイドの最大人数を超えないようにコートから離れるまで入ることができない。

第3条 第6項 ケガや病気や事故の処置について

[1] ①ケガや病気が起こり主審に呼ばれた場合、レフェリーはすぐにコートに行かなければならない。その後、レフェリーは起こったケガや病気や事故について関連のある事実について確認をするために主審に聞かなければならない。もし必要であれば、コートサイドで待っている医師または医療関係者をコートに呼ぶものとする。そして、主審にケガ等によって生じた遅延の時間について計測をするよう確認しなければならない。

②…急性の体調不良または生理等の状況によっては主審が柔軟に判断する…

第5条 第10項 プレーヤーがコートを離れることとプレーの継続に関して

[3] サーバーが所定の位置につき準備ができた後、レシーバーは次のサービスを受ける準備に不当に時間をかけてはならない。

[4] マッチ中、もし、プレーが不当に中断しない範囲で、かつ第5条第10項 [3] に定める条件を満たしている場合、主審の判断によりプレーヤーは、ラリーの合間に次のことが許可される。

①クイックタオル（素早い汗拭き）のみ

②汗拭きと給水

[5] コートにモップ掛けが必要なとき、プレーヤーはコート係にモップ係にモップ掛けが必要な場所を示す。プレーヤーはモップ掛けが終了する前にコートに入らなければならない。

[6] 主審は、プレーヤーが故意にプレーを遅らせないようにしなければならない。また、ラリーごとにコート内を不必要に歩き回ったり、コート上で交換したラケットを試打することのないように留意しなければならない。

〔7〕主審は、公認審判員規程第5条第10項〔3〕～〔6〕に違反したプレーヤーに対し、プレーは継続しなければならないことを注意喚起し、必要であれば競技規則第16条第7項を適用する。

第7条 サービスジャッジへの助言

〔1〕 競技規則第9条第1項〔2〕の違反

サーバーのラケットヘッドの後方への動きが完了した後、サービスの開始が遅れた場合は（競技規則第9条第2項）、不当な遅延とみなされる。

↑

それぞれのプレーヤーのサービスの態勢が整った後、サーバーのラケットヘッドへの前方への初めての動きが、サービスの始まりである。

*この規定により、ラケットの前方への振り出しが、サービスの始まりなので、サービスの態勢に入って、シャトルの台が最初にラケットの面に接触し、再度ラケットを引いてからサービスをして「フォルト」にしない。

第15条 第14項

〔1〕 ~~…ただし、医療関係者は…マッチ中、1度だけスプレーを使用した処置をすることができる。~~
※けいれんはケガではないので、主審はプレーを継続させなければならない。

(3) 用語の変更 … 要項にも反映してください。

選手 → プレーヤー

コーチ → 監督・コーチ

ブロック → 地区

コート係（モッパー） → モップ係（コートアテンダント）

和暦表記 → 西暦表記

素早いタオルの使用 → クイックタオル（素早い汗拭き）

※大会時はコートサイドにモップをおくようにしてください。

床が汗でぬれた場合は、線審がモップで拭き取るように指示してください。

（主審は審判台から離れない）

(4) ペアの組替えについて

個人ポイントを80%として計算

(5) その他（よくある質問）

①ラインがひかれていない場合

・シングルのマッチをシングルのラインのみで行うことは可。

・ダブルスのマッチをダブルスのラインのみで行うことは不可。

②レット

・ラリー中のシャトルがネットに乗ってとまった場合はレット。

・ラリー中のシャトルがネットを越えた後ネットに引っかかった場合もレット。

③監督・コーチの着衣

コーチは、コートサイドでマッチにふさわしい服装で臨むこと。

例えば、チームユニフォーム、シャツ、ポロシャツ、ブラウス、長ズボンまたはスカートとし、ジーンズやビーチサンダル、バミュダ、ショーツ、スリッパ、サンダルは禁止とする。

その適否判断は大会レフェリーに委ねるものとする。

×：Tシャツ、七分丈長ズボン←近年はエアコンで温度調整しているため認めていない。

○：チームTシャツ、当該大会記念Tシャツ

3. 「競技上の注意」について

- (1) 用語の訂正
- (2) 学校対抗において、同一プレーヤーが連続してマッチをする場合のインターバルの10分
- (3) 15点×3ゲーム時のインターバル → 総体県大会後に8点時に変更
支部予選会時の制限を統一化（例：県大会出場決定戦前（Best32決め）まではインターバルなし）

4. 大会要項の表記について

- レフェリー（競技役員長） → レフェリー
デピュティレフェリー（総務部長） → 総務部長
デピュティレフェリー（競技審判部長） → デピュティレフェリー
※競技審判副部長はそのまま
和暦表記 令和8年 → 西暦表記 2026年
（注）大会名は令和8年度愛知県高等学校新人体育大会
※日バ（通称） → B A J

5. 合成球（人工シャトル）について

YONEX Crosswind70【CW-70P】（6個で4,510円）と、Victor NCS Pro（オープン価格）が合成球として公益財団法人日本バドミントン協会用品用具検定審査合格品となっています。Victor NCS Max（OPEN価格）を発売（検定は10月か?）
YONEX Crosswind70は2026年度内の一般発売予定なし。

現在、県大会の要項には「公益財団法人日本バドミントン協会の第1種検定合格球に限る。」と記載されています。
合成球の使用を認める場合は、記載内容の変更が必要。

愛知県高等学校総合体育大会 では現行通り、水鳥の「第1種検定合格球に限る。」で実施する。
愛知県高等学校新人体育大会 でも、水鳥の「第1種検定合格球に限る。」で実施したいと考えています。
→県大会では、本部よりシャトル支給？

【問題点】

- ・入荷が安定しないため、合成球を入手できた学校の選手は合成球で練習することができ、入手できない学校は合成球で練習できないので、水鳥と打球感が異なるので、使ったことがない選手は不利になる。
- ・合成球は水鳥球よりも耐久性がある（といわれている）ので、次の試合でも使用するのを認めるか認めないかも決めなければならない。（耐久性は、Crosswind70は1マッチで1個程度、NCS Proは1ゲームで1個程度）
- ・試合中のシャトルの交換について、使用したことがない主審が判断できない。（新品と見分けがつかない）
- ・水鳥球と合成球を交互に使用すると選手が混乱。（高体連独自のルールが必要か）
- ・壊れたシャトルで怪我（出血）をしやすい。（毛棒にカーボンファイバー複合材料を使用のため鋭利である）など。

【課題】

- ・シャトル持ち寄りの場合、最初のシャトルをどちらが出すか。
→ ルール化が必要

問合せ先
愛知県バドミントン協会 審判委員会
名古屋高等学校 佐藤雅史
052 (721) 5271
masashi@meigaku.ac.jp
mushy1412@gmail.com

令和8年 5月 8日

各高等学校バドミントン部顧問殿

愛知県高体連バドミントン専門部

委員長 稲垣 翔悟

第80回愛知県高等学校総合体育大会バドミントン競技における学校対抗戦メンバー表の提出について（通知）

県大会の学校対抗戦においては別紙のメンバー表の提出が必要となります。つきましては、別紙用紙に記入のうえ5月16日の学校対抗戦当日、体育館入場後に本部席へ提出してください。

なお、学校対抗戦の試合開始時（挨拶時）には必ず監督も整列をしてください。監督不在の場合、原則としてその試合は没収試合となり、オープン形式での参加となります。

<この文書の問合せ先>

担当 愛知県立豊明高等学校（上出 美佳）

電話 0562-93-1166

FAX 0562-93-1542

種目 バドミントン

男子 ・ 女子

区分

県

学校名

引率責任者氏名

	氏 名	学年	協 会 登 録 番 号
監 督			
コ ー チ			
マネージャー			
選 手 1			
選 手 2			
選 手 3			
選 手 4			
選 手 5			
選 手 6			
選 手 7			
選 手 8			

上記のとおり申し込みます。

令和 年 月 日

学校名

校長名

愛知県高等学校体育連盟会長 殿